

京機会名簿 刷新 配布始まる

3年に一度の京機会名簿がCDで作成されました。会費納入者には順次送付させて頂いております。今回から名簿をCDにしたのは、内容を充実させながら^{〔*1〕}、京機会経費を削減し^{〔*2〕}、京機会の安定経営に寄与するためです。

閲覧するには、このCDをご自分のPCにかけ、ルートディレクトリにある[index.html](#)をダブルクリックしてください。WWWブラウザで見る事が出来ます。



名簿PDFファイルを閲覧するには、すでに別途送付させていただいた閲覧用パスワードが必要です。届いていない、あるいは紛失された時には京機会事務局までご連絡下さい。

〔*1〕 名簿のほか、本部・支部情報、京機会ニュース、京機短信（全編のインデックス）、学歌、さよなら吉田キャンパス（思い出の写真）、こんにちわ桂キャンパス（写真）等が載せられています。

〔*2〕 従来通りの冊子の名簿はご希望が多く集まれば有償で印刷する予定です。ご希望の向きは京機会事務局にご連絡下さい。経費も勘案し、実行案を近々ご相談させて頂く予定です。

就活生の自己分析？

工学研究科マイクロエンジニアリング専攻
修士1回生 栗山頌平

就活生がやるべきことの一つに、自己分析がある。これは、社会に出て働く前に、「自分ってどういう人なの？何に向いているの？社会とどう関わっていききたいの？」という、自分自身の特徴、価値観を明らかにすることによって、自分が充実して働ける場所を見つけるためのものだ、と言えよう。しかし、自己分析、すなわち自分を知るというのは、多分に哲学的な側面を持っており、あまりそれに囚われすぎるとかえって混乱する恐れがある、とも言われる。つまるところ、自己分析は程々に、というわけだ。

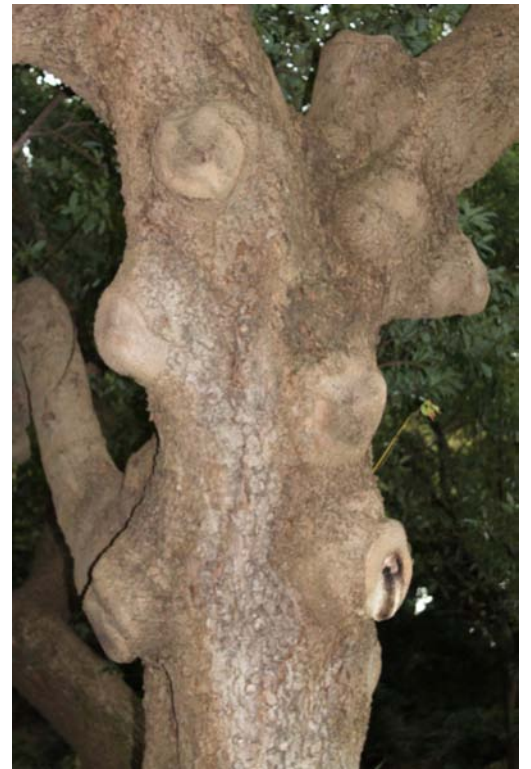
人はいかにして自分自身を知るかについて、ゲーテは「観察によってではなく、行為によってである。汝の義務をなさんと努めよ。そうすれば、自分の性能がすぐわかる。」「だが、何が汝の義務であるか。その日その日の要求。」と書いている（『ゲーテ格言集』、新潮文庫）。これはあまりにも正鵠を射ていて耳が痛いぐらいだが、これと似たことを、中野剛志は「人はどうやって仕事を選ぶのか～理論と実践の間」（『読書の時間』（ウェブ上に掲載））の中で書いている。人間が自分の能力や性格について正確に知るのは、実は仕事に就く前ではない。職業を選択し、その職業で一定期間働き続ける中で、自分が何者であるかを知るのである。つまり、最初に労働ありきで、労働それ自体が人生の目的であるのだ、と。（彼はこの文脈で、新自由主義的な考え方に基づく自由な労働市場、すなわち、「労働者は自分の能力や性格についてすべて知っており、自分の能力を考慮した上で、自分の利益になるように合理的に計算して職業を選択できる。また企業も、自社の利益になるように労働者を雇用したり解雇したりできる」という市場を批判し、束縛というものの意義について論じている。）要するに、人間は周囲との相互作用を通じて自己を知るべし、ということだろう。

だが、かといって自己分析をしないわけにはいかず、また自己分析は程々にしてまずは働いてみよ、と言われても、どれくらいが程々なのかよく分からないし、自分なりに考えてしまうことはあるのだ。考えるにあたっては読書は有効なツールだと



写真、図表等は、本文と関係のないイラストです。
後掲の関東写真同好会の作品です。

信じるが、ときに、自分の考えに新たな風を吹き込んだり、今まで何となく感じていたことに明確な形を与えてくれたりする刺激的な文章に出会う。そうすると、自分が昔からおぼろげながら抱いていた疑問にも実は理由があり、またそれは案外他の人も感じていたことなのだと気付かされたりもする。



寺田寅彦が「科学とあたま」（『寺田寅彦随筆集 第四巻』小宮豊隆編、岩波書店）と題する随筆の中で、ある老科学者から聞いたこととして、こんなことを書いている。科学者は、混乱の中にあっても前途を見通す洞察力と直観力を持ち、正確かつ緻密に考える能力が必要であるという意味で、もちろん頭がよくなければいけない。しかし同時に、科学者は頭が悪くなくてはならないのだ。このことを寺田はバラエティ豊かに表現し説明するのだが（これは一読をお勧めする）、例えば「頭のいい人は見通しがきくだけに、あらゆる道筋の前途の難関が見渡される。少なくとも自分ではそういう気がする。そのためにややもすると前進する勇気を阻喪しやすい。頭の悪い人は前途に霧がかかっているためにかえって楽観的である。そうして難関に出会っても存外どうにかしてそれを切り抜けて行く。どうにも抜けられない難関というのはきわめてまれだからである。」また、「頭のいい人には他人の仕事のあらが目につきやすい。（中略）頭の悪い人には他人の仕事がたいいていみんな立派に見えると同時にまたえらい人の仕事でも自分にもできそうな気がするのでおのずから自分の向上心を刺激されるということもあるのである。」つまり、科学者には明晰な頭脳とともに「行動力ある鈍感さ」が必要だということだ。さらには、「頭のいい人は批評家に適するが行為の人にはなりにくい」とも書いている。

科学者と批評家の類比を別の観点から書いているものに、中原佑介の「二十代のメッセージ」（『中原佑介美術批評選集第1巻』現代企画室+BankART 出版）がある。彼は京大の湯川秀樹研究室で理論物理を専攻しながらも美術評論の道に転じた人物であるが（私は初め、彼がセザンヌの絵画を新即物主義的に明解に解説したものを読んで感動し、彼のことを記憶したのだが、経歴を調べてみて驚いたと同時に納得した）、彼は「物理学から離れてしまったのちに、しばしばあれはどういうことだったのだろうかと自問」し、自分は「演技者」になることを夢見てきたつもりが、実は「専門的観客」となることを目指していた

のではなかったかという発見に至る。アインシュタインは「相対性理論」という劇を生み出した「天才的演技者」だが、中原は「専門的観客」という道を選び、ステージには物理学者に替わって美術家が登場したというわけだ。さて、我々は大学に入って通常学部の三回生までは基礎学問を勉強し、四回生から各専門分野に分かれて研究を始めるわけだが、この移行は我々にとっては必ずしも自明のものではないのではないかと思う。これは、勉強は受動的、研究は能動的であり、従って前者の方が簡単で、後者は難しだろう、ということに端を発するものとは違う（それは正しいことではあるのだが）。基礎学問の勉強から最先端科学の研究へという「演技者」の方向がある一方で、それ以外の興味の持ち方をする人もあるかもしれない。彼の「専門的観客」というのは、そういうものの可能性を言っているのではないか。

以上、自己分析というテーマに対して、いくつかの著作から引用して書いてきた。これらはいずれも、私の中に深く入り込んできたものである。だから、もしかするとこの文章を読んで何かしら得るものがある人もいるかもしれない。それならきわめて幸いである。最後に。一人の人間の中には複数の自分がいて、人間というのはそれらの間で微妙なバランスを保ちながら生きているのではないか、と私は最近感じている。平野啓一郎の表現を借りれば、individual（個人）ではなくdividual（分人）であるということだ。だから、自分を構成するいろんな自分を持っていてよい。その意味で、統一、あるいは一致という考え（これは科学の発想か。曰く、実験値と理論値の一致、など）に固まってはいけない。そういうことを思うのだ。

(おわり)



航空工学の歴史書を読む

小浜弘幸 昭和32卒・河本研

「航空工学教室」が「応用物理学教室」と云われていた頃に学窓を巣立ったものにとって、関連する講義の内容は戦前・戦中の研究開発の成果が十分に盛り入れられたものであることは推察できても、直接にモノ（飛行機など）に話が繋がらないもどかしさを感じるが多々あった。左翼跳梁の昭和20年代の雰囲気や、後に産学協同粉砕から学園紛争に至る歴史の流れを見てきたので、情報を持つ人、情報に飢えた者の間の摺りガラスに仕切られたような不透明感の意味は理解できるけれども、このとき感じた一種の不調和感はいつまでも残っていて、これがその後、終戦で打ち切られた後に始まった歴史ではない、明治以前の昔からずっと連続する歴史の流れのなかでの技術の全容を知りたいという気持ちになって現れた。傘寿に達しても未だ続く飛行機への関心は、このようなところにも一つの原因があると思っている。

このような気持ちにに応じてくれる書物に最近出会ったので、参考のためにご紹介したい。「空気力学の歴史」A History of Aerodynamics and Its Impact on Flying Machines（ジョン・アンダーソンJr. 著 織田 剛訳 京都大学出版会 2009年10月）は1997年に上梓され世界的に名著として著名な書物を、京機会会員（1990年卒）で（株）神戸製鋼所の研究職をされている織田 剛氏が訳されたものである。アリストテレス、アルキメデスに敬意を払いながらもレオナルド・ダ・ヴィンチから始めて流体力学の歴史を語り、ジェット機の時代の空気力学に至る長い歴史を、時代の背景と関った人物の横顔を説明しながら、理論的な学問の流れと飛行機開発の実際を紹介する。A5版618頁の浩瀚な書物ながら、説明は平明で理解しやすく訳文も流麗で読みやすい。ひとまず通読して技術の流れを見た後、座右においてときどきにひもとく書物とするにふさわしい。

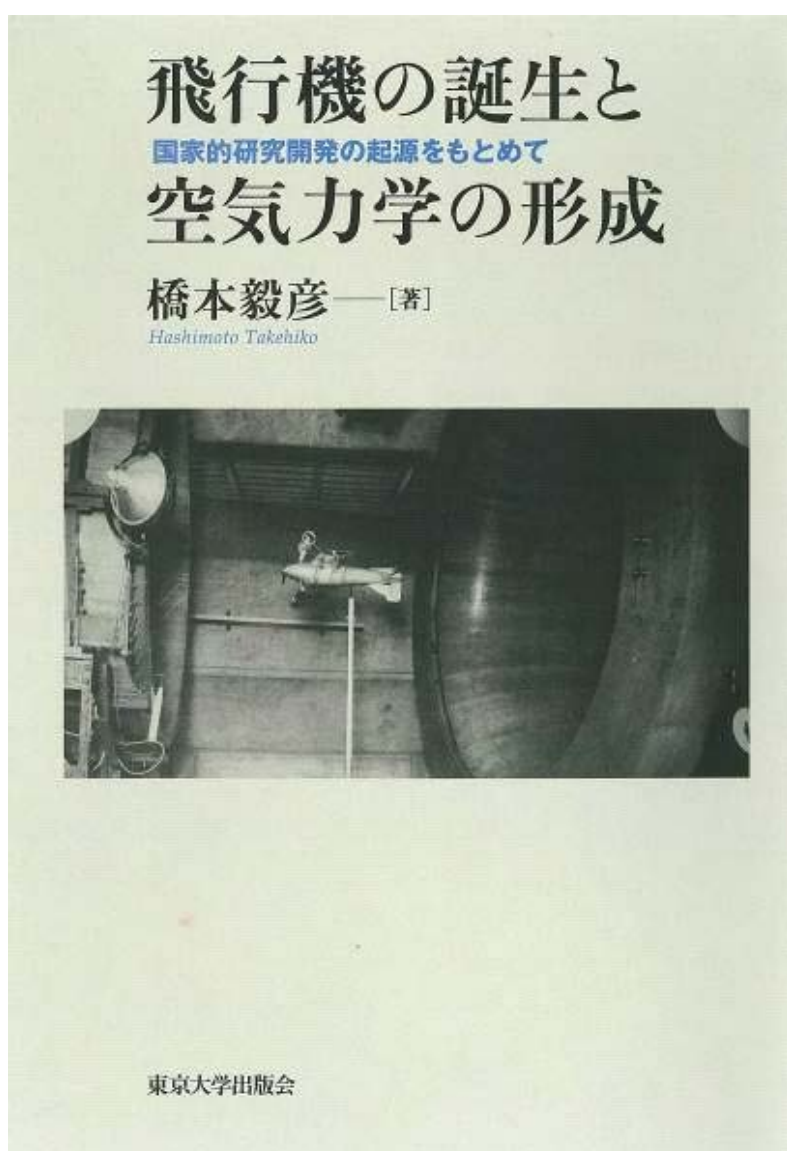


先端的な学問と技術の塊と思っていた航空工学も、両者が合体して力を出し始めたのは20世紀が始まってから、ドイツ・ゲッティゲン大学のプラントル研究所と、アメリカのNACAの仕事に象徴される組織的な研究活動が実施されてからである。これらの研究活動と平行して研究を進めてきた、イギリスの王立航空研究所と日本の東大航空研究所での谷一郎教授の仕事を追ったのが「飛行機の誕生と空気力学の形成 国家的研究開発の起源をもとめて」（橋本毅彦著 東京大学出版会 2012年9月）である。歴史書としてまとめられているので縦書きのA5版410頁のこれまた大部の書物である。

「層流翼」というのは懐かしい言葉であるが、先の大戦前から戦中にかけての1940年前後に開発された飛行機の主翼のデザインに関する技術で、アメリカではノースアメリカンP-51ムスタング、日本では川西航空機の紫電改で実用された。境界層の剥離に伴う流体抵抗を減ずるため、主翼表面の流れを層流にするべく断面の最も厚いところを後方に移したもので、戦時中にはトップシークレットと秘されていたが、後に重要な技術開発と広く知られるようになった技術である。

レシプロエンジンで駆動される飛行機は1930年代になると金属製の流線型となり、空気抵抗を減らすことが研究の目標の一つとなった。NACAのイーストマン N. ジェコブスがこの問題に取り組み、上記層流翼の設計にたどり着き実用化に達したが、日本でも谷教授がこれとは関係なく、川西航空機の菊原静男技師の要請に応じて研究開発され、実用に至った。これらの経緯が詳しく解説されている。

終戦直後に失われた多くの資料の空白を埋めるため、戦時中に航空技術に関われた方々からの寄稿を集めて編集されたものが「日本航空学術史（1910



ー 1945)」である。日本航空宇宙学会より刊行されたこの書物は、終戦直後に企画され、45年の歳月を経て、1990(平成2)年によく上梓されることになった。B5版457頁、大判のこの書は、300名に及ぶ個人寄稿者、陸軍、海軍、技術院、東大航空研究所、中央航空研究所、航空試験所などの公的機関、川崎航空機など民間会社の戦時中の活動をまとめ、飛行機の設計・性能、構造・強度、振動、空気力学、プロペラ、原動機について各々まとめの解説を行い、飛行機、発動機の要目表と材料規格を付したものである。戦時日本の航空工業の動きが良く判り、いろんな機会に参照して新しい発見がある。

上記のうち、最近上梓された橋本教授による歴史書は、先行する2書をしばしば引用されている。この2書はすでに古典並みの地位を持つ標準書と云っても良いだろう。温古知新というような効用を望むのではなく、ただ、あの時代のなかで我々の知らなかった世界を全く異なったベースに立って力いっぱい活動された諸先輩の事実を、きっちりと叙述された書物に触れることは楽しみであり、この歳まで生き延びたものにとって深い意義があると考えている

森研同窓会

曾田幸二（昭和42年卒）

平成24年11月3日(土)、ホテルグランビア京都で森研同窓会を開催しました。故森美郎教授の奥様・克子様のご参加もいただき、計63名が出席、懐かしい再会に思い出話が弾み、賑やかで楽しい集いとなりました。今回が全体同窓会の最終として、今後は年代・地区別の小規模同窓会で進めていきたいと考えています。



野次馬話 第61話 「いわんや悪人をや」

S43 卒 遠藤 照男

何処で聞いたか忘れたが、「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。」をお気楽に解釈する人がいた。曰く、「親鸞が言っているように、罪を犯した悪人でさえも極楽往生出来るのだから、善人が往生出来るのは当然である。」と。底が浅いね。阿弥陀仏の力にすがれば、誰もが救われることに違いはないのだが、「悪人」というのは、悪党、犯罪者の類のことを言っているのではない。修行を積み、自省し、もがき苦しんでいる人のことである。「当然往生できる」のはこの「悪人」であることが解っていない。

浄土真宗の開祖である親鸞の没後に弟子が提唱した歎異抄（たんにしょう）に、「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。」と記されている。門外漢の私にこの教義の深い解釈は出来ないが、大まかに次のように理解している。

真の「善人」は自らの力で成仏を目指せる。それ故善人になるべく励もうとしても、修行を重ねるほど、己の心の不誠実、嘘偽、傲慢等の故に、何ものにも救われる術がないことを知り、自らが「悪人」とであると目覚めることになる。そんな「悪人」こそが、阿弥陀仏の救済の対象になる。一方で、自分が「善人」で何事も自力で解決出来ると思い込み、自分の本質を直視出来ない者でも、一途に阿弥陀仏の力にすがれば、仏の慈悲で浄土に往生出来るとされている。

そんな訳で、修行を積んでいない「善人」でさえ浄土往生が出来るのだから、阿弥陀仏が救済しようと思われる、もがき苦しんでいる者が往生出来ない訳はない、ということなのであろう。

—— 京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます ——

また、原稿が切れてきました。投稿、お願い致します。

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

平成24年度 秋季大会・総会

本年度の秋季大会・総会は、平成24年12月8日（土）に、京都大学百周年時計台記念館で開催されました。

まず、午前10時30分から先輩と学生との交流会が開かれ、約400名以上が参加しました。



午後から総会が開かれ、127名の一般会員に加え、先輩と学生との交流会参加の学生もかなりの数が出席しました。会長代行の立場であった松久寛名誉教授が正式の会長に選任されました。 総会の後、**さようなら吉田キャンパス「思い出の光景」**、2012年機械遺産認定のウォシュレット開発物語 ～日本トイレの進化～ のお話（TOTO（株）昭和56年卒 中村久志氏）、**桂キャンパスへの誘い**などの機械系教室の最新情報が紹介されました。

懇親会には約300名が出席し盛大な総会を楽しみました。総勢438名の出席は京機会史上最大出席です。ご家族等の同伴者は3名出席でした。

教室はキャンパス移転作業の真っ最中、日本も世界も混沌の中で今年も暮れて行きます。

会員各位、良いお年をお迎え下さい。

世話人

移転、真っ盛り

機械工学教室は桂坂キャンパスへの移転で大忙しです。当分、各種業務がドタバタし、会員各位にもご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご理解たまわりたく、宜しくお願い申し上げます。

世話人



関東支部写真同好会 第6回撮影会の報告と作品掲載

写真同好会世話役 江上秀男

今回の関東支部写真同好会、秋の撮影会は浜離宮の散策としゃれこみました。11月17日のお天気は肌寒く、小雨模様でしたが、皆、熱き想いで、シャッターを押しまくってきました。



近日掲載予定の京機会ホームページにて、みんなの作品をご覧ください。

< http://keikikai.jp/shibu/kantou/katudou_ichiran/s-shashin.html >

鋭い写真、楽しい写真いろいろです。H24年春、秋撮影会の参加者全員の作品を今年も品川和彊館での関東支部新年会（2013/1/26）で展示させていただきます。ご高覧ください。

なお、次回は来春に予定していますが、未だ撮影地は決めていません。ご希望、ご推薦をお寄せください。
初めての方もお気軽にご参加頂いています。ご家族同伴でのご参加も歓迎です。



1. 日本が中国市場に提供すべき価値とは

Tech-On!

行動観察で潜在ニーズを探る：“行動観察”から見た中国人観光客の姿

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/FEATURE/20121116/251575/>

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/FEATURE/20121116/251576/>

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/FEATURE/20121116/251591/>

我々が所属する大阪ガス行動観察研究所では、日本企業が中国市場に提供できる価値を知るために、日本に来る中国人観光客の旅行行程に同行する「行動観察」調査を2012年初頭に実施した。日本を旅行することによって、中国人観光客が得る経験を粘り強く観察することで、中国人観光客は日本の何に喜びを感じるのか、そして何を不満と思うのか、について膨大なインサイト（洞察）を得ることができた。本連載では、特に家電のショッピングに関連する内容を紹介する。

2. 中国・新興国における工場自動化に伴うロボット需要の拡大

2012年12月3日 みずほ銀行

http://www.mizuhobank.co.jp/corporate/bizinfo/industry/pdf/msif_039.pdf

3. 外国企業の前に立ちはだかる中国の新たな " 万里の長城 "

現代ビジネス

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/34073>

複雑な書類手続き、なかなか下りない認可、高官の嫌がらせ-----。中国市場を狙う外国企業を阻む動きがますます加速している。

4. 中国人の心を掴むブランドの創り方

中国流のルールを学ぶ

中国人の「クセ」を掴んで、利用せよ

東洋経済online

<http://toyokeizai.net/articles/-/11880>

この時期のスタートですから、まずは一連の外交問題がビジネスに与える影響に触れないわけにはいきません。日本のマスコミでは市民デモや工場操業停止、日本製品ボイコットなどは報道されていますが、実際のビジネスの内奥で何が起きているか、深掘りされていない印象があります。実際問題、被害は甚大です。私のビジネス領域である広告で言うと、以下のようなことが起きています。

5. 日本人が知らないリアル中国ビジネス

DIAMONDonline 江口征男

地方政府との共同ファンドで地元企業に投資

投資先と日系中小企業との橋渡し役に意欲

日本アジア投資取締役中国総支配人インタビュー

永島一広

<http://diamond.jp/articles/-/28454>

中国で地方政府との共同ファンド運営などで投資を進める日本アジア投資。取締役の永島氏に、現在の中国の投資環境と、なぜ地方政府との共同ファンド運営という形で投資をするのか、また今後、日系企業が中国で勝っていくためのヒントなどについて聞いた。

6. 中国経済展望 ～2013年&その先

キヤノングローバル戦略研究所

http://www.canon-igs.org/column/network/20121204_1675.html

http://www.canon-igs.org/column/pdf/121204_seguchi.pdf

中国経済は2012年8月をボトムに緩やかな回復局面に入った。第3四半期（7～9月）の実質成長率は7.4%。2010年第4四半期（同9.8%）以降、7四半期連続で低下しており、一見したところ厳しい状況に見える。しかし、月次データの変化を見ると、工業生産、固定資産投資、輸出、小売総額といった主要経済指標が、いずれも9月以降反転または上昇している。こうしたマクロ経済指標の推移から見て、景気は8月で底を打ち、9月以降、回復軌道に入ったと見られる。多くの専門家が、2012年の成長率は通年で7.0～7.6%に着地、2013年は8.0～8.2%成長と予測する。

7. 中国の新たな産業政策が始動

2012年11月30日

富士通総研

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/report/china-research/topics/2012/no-160.htm>

2010年10月に、中国政府は産業構造の転換及び持続的な経済発展の実現を目指した新たな産業政策である「戦略性新興産業の育成と発展の加速に関する決定」を打ち出した。この決定は中国国民経済と社会発展の第12次五ヵ年計画（2011～2015年）の重点ポイント（産業構造転換・環境配慮型社会構築）と呼応する。決定が公布されてから過去2年間の動きを振り返ってみると、着実に推し進められたことを評価できる。中国がこれら戦略性新興産業を将来のリーディング産業に成長させる意図と決意も読み取れる。GDPに占める戦略性新興産業の割合（現在5%以下）を2020年までに15%に達成するには様々な課題を克服する必要があるが、今後の動向、特に重点分野の成長に注目したい。

8. 中国版の所得倍増計画の意味

2012年11月30日

富士通総研

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/report/china-research/topics/2012/no-159.htm>

さる11月14日閉幕した第18回共産党大会で胡錦濤国家主席は2010年に比べ、2020年に国民所得を2倍にする、いわゆる中国版所得倍増計画を発表し

た。分かりやすくいえば、2010年の一人当たりGDPは約5,000ドルだったので、この所得倍増計画が実現すれば、2020年に10,000ドルに拡大することになる。10年間で国民所得を2倍にするため、GDPを年平均7%成長させる必要がある。これは今の中国にとって無理な目標ではない。2011年の実質GDP伸び率は9.2%だった。今年の成長率はおそらく7.7%前後になるとみられている。残りの8年間、年平均6%強の成長を実現するのはそれほど難しいことではない。

9. 中国の景気動向と日本企業の対中投資戦略

国際協力銀行中国智库－ 寄稿

2012年 9・10 月号 JBIC 中国レポート 富士通総研経済研 柯 隆

http://www.jbic.go.jp/ja/report/reference/2012-071/jbic_RRJ_2012071.pdf

中国景気は急減速し、まったく歯止めがかからなくなっている。中国国家统计局が発表した第三四半期（7－9月）の実質GDP伸び率はついに政府が掲げる経済成長目標を下回り、7.4%の低水準を記録した（図1参照）。中国政府の公式見解では、経済成長が減速しているのは欧州債務危機により 外需が弱まっているという外部要因によるものとされている。しかし、今年1－9月期の純輸出（輸出－輸入）は1,483億米ドルの高水準を記録し、経済成長の足を引っ張っているとはいえない。また、同期の輸入の伸び率は4.8%であったのに対して、輸出の伸び率は7.4%であり、これも低水準とはいえない。

10. 岐路に立つ韓国経済

日経ビジネスonline

大手企業のビジネスにも影

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20121129/240310/?P=1>

韓国経済の低迷が長期化しそうだ。2012年の経済成長率は2.4%と予測されていたが、これを達成するのはとても難しそうだ。

11. サムスングループ李健熙会長、就任から25年

JBPress

「すべてを変えろ」――飛躍の種本を改めて読んでみた

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/36672>

サムスングループの李健熙（イ・ゴンヒ）氏が会長に就任してから2012年12月1日でちょうど25年が経過した。サムスの強さは今さら説明する必要もないが、会長就任当時は半導体事業に本格進出した直後でまだアジアの新興企業の1つだった。サムスはどのように強くなれたのか。今もグループの幹部が繰り返し読んでいた会長の著書「新経営」を久しぶりに読んで見た。

12. 日本より重い「日本病」に罹る韓国

日経ビジネスonline

『老いてゆくアジア』の大泉啓一郎氏に聞く

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20121126/240071/?P=1>

http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20120120/226331/?leaf_kbn

韓国でも「日本病」が問題となり始めた。少子高齢化による低成長や要介護者の急増など、症状が一気に顕在化したからだ。『老いてゆくアジア』の著者、大泉啓一郎・日本総合研究所上席主任研究員と鈴置高史編集委員が、急速に進むアジアの高齢化を話し合った

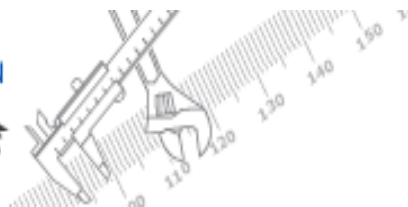
12．韓国を襲ったIMF危機から15年

JBPress

経済強国に急浮上も選挙の争点は経済民主化と福祉

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/36622>

「朝鮮戦争以来の国難」――。1997年12月の大統領選挙で当選した金大中（キム・デジュン）氏は、韓国を直撃した通貨経済危機（IMF危機）をのちにこう評した。あれから15年。韓国の経済社会は様変わりした。大胆な改革で「超競争社会」に生まれ変わり、経済強国に浮上した。



報告

ご挨拶

今年も残すところあとわずかとなりました，皆様ご多忙のことと存じます．KART は現在，製作開始に向けて準備を進めつつ，静的審査の対策にも着手いたしました．

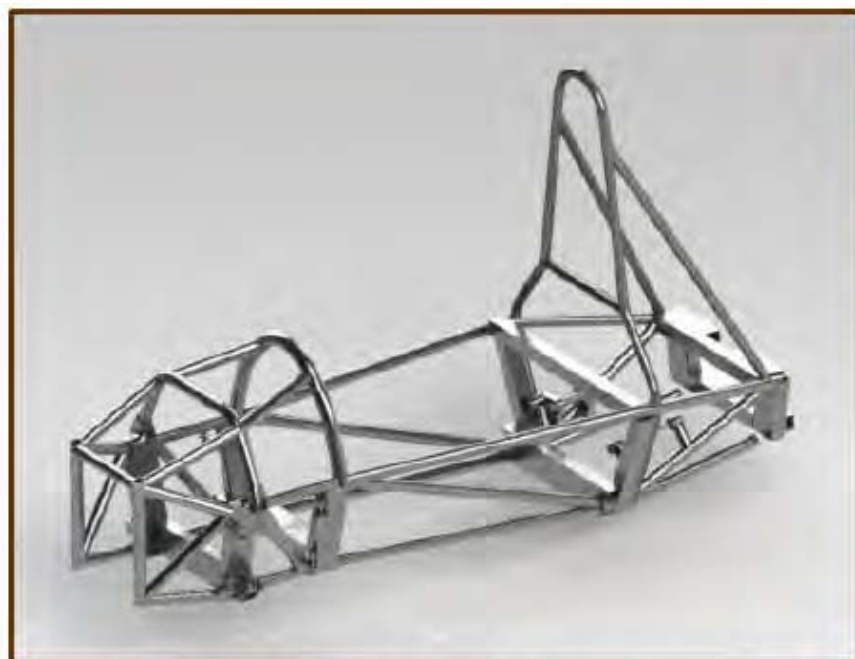
12月8日の京機会秋季大会・総会ならびに学生と先輩との交流会では，総会での活動報告に加え，懇親会の場におきまして非常に多くの方々よりご支援を頂きました．また，前回の京機短信にてリタイヤ原因についてお伝えしましたが，内容に関し会員の田丸正毅様(S46)・沢田耕太郎様(S50)を初めとするの方々より様々な助言をいただきました．この場をお借りして，皆様に厚く御礼申し上げます．

中部支部静的交流会

12月8日，名古屋大学において自動車技術会主催の技術車検講習会，ならびに名古屋大学フォーミュラチーム主催の静的交流会が行われ，KARTからは車両統括の松岡(B3)が参加してまいりました．総参加校は29校，参加者192名と非常に大きい交流会となりました．

技術車検講習会は，全日本学生フォーミュラの2013年度ルールを車両設計前にチームに周知させる目的で行われました．2013年度はドライバーの脚のスペースに関する規定，ボディカウルに関する規定などが車両の規定に追加されており，こうした変更部分に関しての解説を大会の車検員の方々にしていただきました．

また2013年度大会より，今まで独立した大会だった全日本学生フォーミュラ大会も世界大会のシリーズ"Formula SAE 狼7中に組み込



設計中の KZ-RR11 フレーム

まれることとなりました。このシリーズ化によって、今まで日本のみで適用されていたルール(ローカルルール)が、2013年度はどの程度まで適用されるのかといった点についての説明・質疑応答がありました。

続く静的交流会は、デザイン審査・コスト審査・プレゼンテーション審査それぞれの分科会に分かれ、参加校同士で静的審査の情報を交換し、また成績上位校が静的審査への取り組みを発表して全体のスキルアップを図るというものでした。KARTは2012年度大会ではデザイン審査3位、コスト審査4位、プレゼンテーション審査3位という成績でしたが、交流会ではコスト審査に関する発表を行いました。

コスト審査以外にも、デザイン審査や車両設計について各校の担当者と意見交換を行いました。今回得られた情報も利用して、静的審査の対策を進めて参ります。



KZ-RR11 のエンジンアッシー